

# 企 画 部 地 域 政 策 課

## 1 中心市街地活性化関係

### (1) 中心市街地活性化基本計画関係

#### ア 中心市街地活性化基本計画の推進

中心市街地活性化協議会と連携し、角盤町商店街振興組合を核として「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」を組織し、今後の角盤町商店街の具体的な施策や事業主体を含めた協議を行った。

#### イ 米子市中心市街地活性化基本計画第3回変更申請の認定

国の支援策の活用に伴う変更が必要となったため、第3回の変更申請を行い、平成30年3月23日付けで国の認定を受けた。

### (2) 中心市街地活性化協議会への支援

#### ア 中心市街地活性化協議会負担金

中心市街地活性化協議会の活動を支持するため、事務局経費の一部を負担した。

中心市街地活性化協議会事務局運営費負担金 974,634円

### (3) 中心市街地活性化事業の推進

#### ア 中心市街地活性化情報発信事業

##### (ア) まちなかを巡るモニターツアー事業

中心市街地の魅力を発信してもらうため、情報発信力の強い地域のブロガーを招いて、年2回モニターツアーを開催した。

夏 平成29年8月20日開催 モニター6名 記事9本

冬 平成30年1月20日開催 モニター7名 記事12本

##### (イ) まちなかなう事業

本市のホームページに「よなご まちなかなう ～まちなか特派員報告～」のコンテンツを作成し、個人ブログで本市の中心市街地等に関する記事を発信している方を、「まちなか特派員」として13名を任命し、本市のホームページに各特派員のブログへのリンクを張り、特派員自らのブログを通じて中心市街地エリアの見どころ、まちなかの楽しさやにぎわいの様子などの発信に取り組んだ。

平成29年4月1日～平成30年3月31日 記事287本

### (4) 中心市街地活性化補助事業

#### ア 米子市まちなかコミュニティ活性化支援事業

1件

(間接補助：県費2/6 市費1/6)

事業内容：施設整備事業（ゲストハウス兼コミュニティ拠点の整備）

補助対象事業費 内訳

(単位；円)

総額	自己資金等	補助額（市・県）
3,510,000	2,010,000	1,500,000

2 基地対策関係

- (1) 美保基地周辺環境整備の調整及び促進を行った。
- (2) 米子飛行場周辺地域振興協議会の開催

総 会 平成29年8月22日

3 米子空港滑走路延長（2,500メートル化）関係

米子空港滑走路延長事業に関する地元との調整は8月22日の地元協議会において、取組状況と地域振興計画の進捗状況等について、説明と報告を行いた承された。

4 地方バス路線関係

- (1) 生活バス路線を維持するため、生活路線維持費補助金の支出を行った。

日ノ丸自動車株式会社

区 分		路線数	補助額（単位；円）
生活路線 維持費補助金	運行費補助金	国県補助対象路線（広域幹線路線）	6 33,368,206
		県補助対象路線（広域路線）	7 23,881,407
		単市補助対象路線（市内完結路線）	10 26,049,953
合 計		23	83,299,566

日本交通株式会社

区 分		路線数	補助額（単位；円）
生活路線 維持費補助金	運行費補助金	国県補助対象路線（広域幹線路線）	1 5,510,705
		県補助対象路線（広域路線）	5 22,713,725
		単市補助対象路線（市内完結路線）	6 15,100,806
合 計		12	43,325,236

- (2) 米子市循環バス（愛称「だんだんバス」）運行

路線バス活性化策の一助として、米子駅を発着し、大学病院など市内中心部を循環するコミュニティバスの運行を行った。

ア ル ー ト 市内中心部（米子駅→大学病院→ホープタウン前→天満屋前→ふれあいの里→高島屋前→米子駅）での一方向周りの循環運行

イ 運行回数 平日21便、土・日、祝日19便（始発8時～終発18時：30分間隔）

ウ 使用車両 市所有のノンステップバス（34人乗り）2台

エ 停留所 32か所（市が設置）

オ 料 金 中学生以上1人1回150円、小学生100円、障がい者等50円、幼児無料

定期券 中学生以上1か月4,500円 小学生1か月3,000円

障がい者等1か月1,500円

回数券 150円券11枚綴り 1,500円 100円券11枚綴り 1,000円

50円券11枚綴り 500円

カ 料金割引 鳥取県内の路線バス定期券（日ノ丸自動車株式会社・日本交通株式会社発行分）を提示された方を対象に中学生以上1回50円割引

キ 運行方法 市とバス事業者が協定を結び、運行するバス事業者に対し、運賃経費から運行収入を控除した、いわゆる赤字額（29年度；13,537,807円）を市が補填した。

ク 利用者数 総乗車人員130,227人  
一日平均358人、一便平均17.6人(幼児を含む。)

(3) 米子市淀江町巡回バス(愛称「どんぐりコロコロ」)運行

路線バスの廃止代替として、淀江駅または米子東病院を発着し、米子市淀江町全域を巡回するコミュニティバスの運行を行った。

ア ルート 便ごとにルートが異なり、淀江駅、白鳳高校、マリ医院、米子東病院、イオンモール日吉津等を巡回(1便当たりの所要時間 15分~56分)

イ 運行回数 平日・土曜10便、日、祝日運休(始発8時5分~終発15時54分)

ウ 使用車両 バス事業者所有のワンステップバス(35人乗り)1台

エ 停留所 53か所(市が設置)

オ 料金 中学生以上1人1回150円、小学生100円、障がい者等50円、幼児無料

カ 定期券 中学生以上1か月4,500円 小学生1か月3,000円

障がい者等1か月1,500円

回数券 150円券11枚綴り 1,500円 100円券11枚綴り 1,000円  
50円券11枚綴り 500円

キ 料金割引 鳥取県内の路線バス定期券(日ノ丸自動車株式会社・日本交通株式会社発行分)を提示された方を対象に中学生以上1回50円割引

ク 運行方法 市がバス事業者に運行を委託し、運行経費から運賃収入を控除したいわゆる赤字額(29年度;8,969,408円)を委託料として支払った。

ケ 利用者数 総乗車人員9,150人、  
一日平均31.0人、一便平均3.1人(幼児を含む。)

(4) 米子市地域公共交通会議の開催

本市における生活交通に関連する事項について、道路運送法の規定に基づく米子市地域公共交通会議において検討した。

ア 構成 学識経験者2名、事業者の組織する団体1名、バス事業者2名、住民又は利用者の代表4名、運転手を組織する団体1名、中国運輸局1名、警察1名、市職員2名 計14名

イ 開催日 第1回 平成29年10月10日

第2回 平成30年2月28日

5 鉄道関係

(1) 山陰本線、福知山線の複線電化等について「山陰本線・福知山線複線電化促進期成同盟会」を通じて要望活動を行った。

(2) 山陰を縦貫し北陸及び近畿を結ぶ超高速鉄道の建設着手推進を目的とする「山陰縦貫・超高速鉄道整備推進市町村会議」を通じて要望活動を行った。

(3) JR利用に関わる諸問題について、JR西日本米子支社との調整を行った。

(4) JR淀江駅前公衆便所の維持管理を行った。

6 航空路線関係

(1) 空港利用者の利便性向上のため、鳥取県、境港市と共同で米子空港駐車場を運営し、駐車場無料化を継続するとともに、JR境線米子空港駅待合所の維持管理を行った。

(2) 平成29年度の米子空港利用者数は、国内線が58.1万人、国際線が7.7万人、合計65.8万人であった。

(3) ANAの米子ー東京便については、平成29年4月1日から5月31日及び平成29年10月1日から平成30年3月31日の間は、1日6往復12便で運航した。また、平成29年6月1日から9月30日までの間は、1日5往復10便で運航した。

なお、平成29年7月1日から9月30日の間は、山陰両県で初就航となる最新鋭の大型機「ボーイング787」が運航し、総座席数の増加による輸送能力の向上が図られた。

(4) 米子空港の利用促進活動について、「米子空港利用促進懇話会」を通じ、各種利用促進活動、PR活動を行った。

ア キャンペーン活動

平成29年10月7日に「空の日」の記念行事として行われる「米子鬼太郎空港フェスタ2017」を関係団体とともに開催するなど、各種キャンペーン活動を実施した。

イ 旅行会社と連携した各種旅行商品の造成及びPR

鳥取県や、中海・宍道湖・大山圏域市長会等と連携し、東京便及び新規路線旅行商品造成及び閑散期対策を実施した。

ウ 新聞雑誌等によるPR

新聞、雑誌、ラジオ、情報誌等により路線や旅行商品についてPRを行った。

エ 要望活動

ANA本社及びエアソウル本社を訪問し、東京便の増便、ソウル便の増便継続等について要望を行った。

## 7 通信関係

通信業務の円滑な事業推進を図るため、関係諸団体との調整を行った。

## 8 水源対策関係

(1) 賀祥ダム建設工事に係る水道局企業会計の負担に対し、次のとおり費用負担を行った。

ア 水道事業出資金 20,929,529円

イ 水道事業補助金 1,539,735円

(2) 旧淀江町簡易水道事業に係る水道事業債償還金の一部について、次のとおり費用負担を行った。

ア 水道事業出資金 4,281,577円

イ 水道事業補助金 1,158,109円

## 9 高等教育機関連携事業

(1) 高等教育機関の充実発展への支援

米子工業高等専門学校の発展と産学連携の強化を目的に、様々な事業を実施している米子工業高等専門学校振興協会の活動に対し、引き続き協力を行った。

平成29年度振興協力会活動内容

ア 講演会・技術交流会

イ 産官学連携推進のための調査研究支援

ウ 共同研究支援

(2) 高等教育機関との連携の強化

ア 鳥取大学副学長（医学部附属病院病院長）・医学部長と市長・副市長が面談し、今後の協力関係を確認した。

イ 自分たちが暮らしている街に愛着を持つとともに、わかりやすいまちづくりを推進するため、通りに通称を命名していく取組みの第一弾として、主要地方道米子境港線の米子商工会議所前から灘町橋まで約860mを通称“医大通り”と命名した。

1.0 交通バリアフリー推進協議会関係

「米子市交通バリアフリー基本構想」（平成21年2月策定）で定めた各種事業の推進状況を評価、検討を目的とした「米子市交通バリアフリー推進協議会」を2回開催した。

開催日：平成29年10月27日、平成30年2月20日

1.1 「先端医療創造都市よなご」情報発信関係

(1) シンポジウム開催

全国でも比較優位性の高い医療関連技術やサービスをこれからの地域活性化に生かすため、米子における医療技術、医療機器開発、健康福祉の取組等、今後の産学官の連携を促進するシンポジウム（「健康で安心して暮らせる米子のこれから」）を開催した。

開催日及び会場：平成29年10月14日 ふれあいの里

(2) リーフレット作製

医療・介護の充実についての記事を掲載したリーフレットを作製し、地域の魅力として市内外に情報発信を行った。

1.2 弓浜コミュニティー広場関係

防衛省中国四国防衛局が整備した弓浜コミュニティー広場（米子市大篠津町）を平成27年度から供用開始した。人工芝で、主にサッカーやラグビー等の利用ができる第1多目的広場と、グランドゴルフ等の利用ができる第2多目的広場があり、指定管理者による施設管理を行っている。

施設名	開場日数〔日〕	利用日数〔日〕	利用人数〔人〕
第1多目的広場	360	201	19,195
第2多目的広場	365	234	4,138